風水害について

台風の大きさと強さ

台風とは、東経180度より西の北太平洋海域に発生した、最大風速が17.2m/s以上の熱帯低気圧のことをいいます。

台風の中心付近は気圧が極端に低いため、周りから猛烈な勢いで大気が吹き込み（吹き込む風は地球の自転の関係で左巻き）巨大な渦となります。台風の大きさは「強風域（風速15m/s以上の半径）」で決められ、強さは「中心付近の最大風速」によって決められます。

●大きさの表現（風速15m/s以上の半径）

（表現しない）	500km未満
大型:（大きい）	500km以上 800km未満
超大型:（非常に大きい）	800km以上

●強さの表現（最大風速）

（表現しない）	33m/s未満
強い	33m/s以上 44m/s未満
非常に強い	44m/s以上 54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

雨や風について

1時間の雨量と雨の降り方

1時間の雨量	10㎜以上 20㎜未満	20㎜以上 30㎜未満	30㎜以上 50㎜未満	50㎜以上 80㎜未満	80㎜以上
雨の降り方	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	一面に水たまりができ、雨音で話し声が聞き取りにくい。	どしゃ降りの雨で小さな河川では、はん濫する危険がある。大雨注意報が発令される。	バケツをひっくり返したような激しい雨で、大雨警報が発令される。土砂災害が起こりやすく、場所によっては避難の準備が必要。	滝のようにゴーゴーと降り続き、傘は全く役にたたなくなる。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。

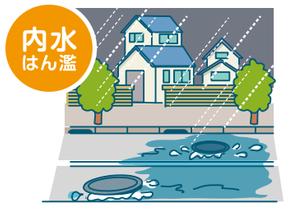
風の強さと被害の程度

風速/風力	13.9～17.2m/s未満 風力7（強風）	17.2～20.8m/s未満 風力8（疾強風）	20.8～24.5m/s未満 風力9（大強風）	24.5～28.5m/s未満 風力10（暴風）
被害の程度	傘がさせず、取り付けの悪い看板などが飛ばされる。	小枝などが折れる。大人はかろうじて歩けるが、子供は飛ばされそうになる。	テレビアンテナが倒れ、屋根瓦が飛ばされる。	樹木は根こそぎ倒され、建てつけの悪い家などは壊れる。

外水はん濫・内水はん濫

はん濫には川の水などがあふれてしまう外水はん濫と、降った雨を排水しきれずに街中にあふれてしまう内水はん濫の2種類があります。

外水はん濫は、河川の堤防の決壊や、河川水位の上昇によって、河川の堤防から水があふれることです。家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こすことがあります。



内水はん濫は、河川から水があふれるのではなく、降った雨を河川へ排水しきれなくなって、下水道や水路などから水があふれることです。

家屋倒壊等氾濫想定区域

河岸侵食
家屋の基礎を支える地盤が流出し、家屋が倒壊するような河岸侵食の発生が想定される区域。

氾濫流
木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流の発生が想定される区域。

※区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることに留意してください。

情報収集をしっかりと

台風は情報さえ得ていれば、ある程度の予測と準備ができるものです。だからといって油断をせず、聞きもらしのないように注意しましょう。

テレビやラジオなどの気象情報をこまめにチェックしましょう。

停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオ（予備の電池も用意する）を用意し、非常持ち出し品、飲料水や食料も準備しておきましょう。

浸水のおそれのあるところは、家財道具や生活用品などを、できるだけ高い安全な場所へ移動させましょう。

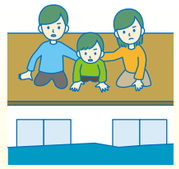
避難する時の注意点

避難情報などが出されたら、すみやかに避難をしましょう。動きやすく安全な服装での避難を心がけ、単独行動はしないように。「まだ大丈夫」という自己判断は禁物です。

共に避難している人とはぐれないようにお互いの体をロープで結び避難しましょう。

水に浸かっても歩きやすいはき物で避難しましょう。

長い棒などを杖がわりにして、段差や水路・マンホールなどに十分注意しながら歩きましょう。



歩行可能な水深は、約50cmが限度です。水の深さが腰まで達していたなら、無理をせず高い場所で救援を待ちましょう。

浸水時の危険個所

道路や鉄道などが立体交差する場合、その下を通る地下道を“アンダーパス”といいます。浸水時アンダーパスは真っ先に冠水してしまいます。

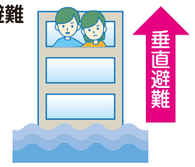
●地下道（アンダーパス）
車両の場合、30㎝程度の冠水で走行困難になる場合があります。

浸水時の水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難所への移動（水平避難）だけでなく、近隣ビルの高層階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い救助を待つという判断も必要です。

●避難所への避難

●高所への避難



ため池災害について

ため池とは

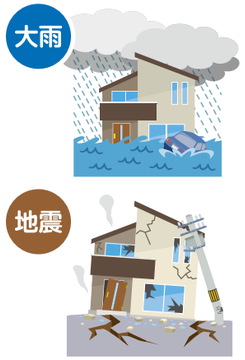
ため池は、農業用水の確保を目的として古くより築造されてきました。現在ではその豊富な貯水量と自然環境によって、利水はもとより動植物の生息・生育環境として貴重な役割を担っています。しかし全国の事例では、施設の耐用能力を超える大雨や大規模な地震によって、ため池が決壊し大災害が発生しています。

和泉市では、
ため池が決壊した場合に想定される
浸水区域や水深などをとりまとめた
「ため池ハザードマップ」を
作成しております。

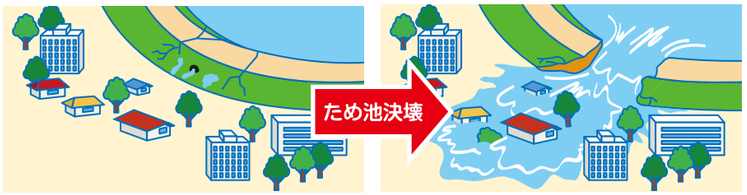
詳しくは市の
ホームページをご確認ください。
和泉市 ため池ハザードマップ 検索

ため池の決壊要因

ため池の堤防は日頃から安全管理を行っていますが、施設の耐用能力を超える大雨や地震の発生によって損傷を受ける場合があります。大雨のときや地震のあとは、ため池の決壊に注意が必要です。



大雨のときや地震のあとは注意しましょう。



ほかにも堤防の沈下、斜面すべり、越流による破壊等が想定されます。